



# 埼玉講話 第二回

## 「いのちに合掌」

常務理事 穂山教雄  
(菅蒲町・妙福寺)

お盆の先組供養も各家各様に  
行なわれ、恒例の行事とは言わ  
れながらも、御霊への子孫たち  
の熱い思いを感じる事ができ  
ました。続いてお彼岸会の準備  
もありましたが、選挙管理委員  
の関係で日々期日前投票に立ち  
会っておりまして。結果は驚き  
の保革逆転・政権交代。  
今日、言いようのない閉塞感  
がただよっています。将来への  
希望が見いだせないで目標が  
定まらず、とても不安になりま  
す。心が荒れ、人と人との信頼  
関係も薄れていきます。こうし  
た負の流れを止めねばなりません。  
新政権への期待は多大です。  
私どもも決して手をこまねい  
ているわけではありません。微

力ながらも「いのちに合掌」運  
動を展開中です。

### いのちに合掌

人はみな、仏様になります

人のいのちは勿論のこと

すべてのものに

いのちがあります

今ここにあるいのちに

感謝し心を込めて

合掌しましょう。

― 標語の一部 ―

命軽き時代と言われています。  
命軽き時代なればこそ、かけが  
えのないわが命に目覚め、自分  
以外の命を尊び合掌する実践の  
勧めです。全てに「南無」とす  
る運動であります。

これはお釈迦様が過去世でな  
されたご修行と説かれています。  
お経（法華経）に『正しい法が  
滅んでしまった遠い昔、「常不  
軽」と呼ばれた菩薩がいました。  
彼は出会う人ごとに「わたしは、

あなた方を敬います。決して軽

んじたり見下げたりはしません。

あなた方は、みんな菩薩の道を行

じて、必ず仏になる方々であ

るからです」といつて賛嘆しま

した。中には怒る人、杖で打ち、

石を投げつける人もいましたが、

決して怒らず、少し離れて同じ

ことを繰り返して人々を礼拝

し続けました。長い長い間この

「但行礼拝」の修行をしたので、

その功德で「おおなる悟り」

を得ることができました。常不

軽菩薩に礼拝された人々は、そ

の縁で一人残らず正しい教えに

導かれました。』とあります。

常不軽菩薩は修行時代のお釈迦

様ということですから、仏様の

教えの基本は、本心から「いの

ちに合掌」する実践ということ

になります。

この常不軽菩薩の修行に感動

し、自分もそのように生きたい

と切望したのが「宮澤賢治」で

あり、その詩が「雨ニモマケズ」

です。詩は「ソウイウモノニワ

タシハナリタイ」で結ばれてい

ます。

生涯を救ライ事業にささげら

れた「綱脇龍妙」師の精神も常

不軽菩薩の但行礼拝の数えにあ

りました。施設名も常不軽菩薩

の礼拝ことばから「深敬病院」

と名づけ、明治三十九年の設立

から八十七年間に一四四五人を

収容、平等で暖かい理想的な運

営であったと言われています。

また良寛禅師の歌に「僧はた

だ何もいらす常不軽菩薩の行ぞ

尊かりける」とあったと思いま

すが、「但行礼拝行」の実践で

のみならず、人が人を、人が動

植物を、人が自然界を合掌礼拝

できたら、こんな平和なことは

ありません。

簡単そうで実は大変難しい修

行です。難しいけれどお釈迦様

の教えをいただく者としては努

力実践しなければなりません。

難しいけれど何とか行なおうと

いう強い志を「誓願」と言いま

す。「誓願」を立てないと前進

しませんので、「本心からいの

ちに合掌する実践」の「誓願」

を立てましょう。

## 第32回埼玉県佛教徒大会

# 大会テーマ 『共に歩もう仏の道』

日 時 平成21年10月7日（水）

会 場 秩父宮記念市民会館ホール [秩父市熊木町8番18号]

内 容

9：30 開 場

10：00 開会行事

10：30 記念講演 『道元禅師の御生涯』  
—映画「禅・ZEN」を撮り終えて—  
元駒澤大学総長 大谷哲夫 先生

12：00 昼 食

13：00 記念公演 『小鹿野歌舞伎』  
出演者 小鹿野歌舞伎保存会

15：00 閉 会



西武秩父駅

# 第32回埼玉県佛教徒大会

◆10月7日（水）、埼玉県佛教徒大会が秩父支部主管により、秩父宮記念市民会館を会場に開催される。埼玉県佛教会主催の行事としては、先の奉詠大会と並ぶ二大行事の一つである。今年の大会テーマは『共に歩もう仏の道』。

一人者である元駒澤大学総長の  
大谷哲夫先生を迎える。

大谷先生の著書『永平の風・道元の生涯』は道元禅師の人生を、その背景から光をあてる視点で描き出し、禅師の息づかいを現代に蘇らせた『道元物語』として話題を呼んでいる。

## 記念講演・講師紹介

記念講演の講師として、道元禅師語録『永平広録』研究の第



## ◆映画「禅・ZEN」

今年の初め、この著書を原作とした映画「禅・ZEN」が全国で公開された。鎌倉時代の僧であり、曹洞宗の開祖であり、ただひたすら座り続ける『只管打坐』を提唱し、禅の教えを説いた開祖、道元禅師の生涯を描く歴史ロマン。歌舞伎俳優の中村勘太郎が、道元の生きざまを凜とした姿で演じる。またヒロインのおりに内田有紀がふんす

るほか、北条時頼を演じた藤原竜也は秩父市の出身でもある。ほか笹野高史、高橋恵子といった脇を固める俳優陣も豪華。生



や死を深く考えさせられるのももちろん、禅師の魅力的な人柄や風光明媚な自然をとらえた娯楽作品としても楽しめる。高祖道元禅師は、福井県にある曹洞宗大本山永平寺に祀られている。

## 記念公演・小鹿野歌舞伎

午後からは、小鹿野歌舞伎保存会による小鹿野歌舞伎の公演。起源は今から二百数十年前にさかのぼり、江戸で修業を積んだ初代東彦五郎が帰郷後近所の若

者に歌舞伎を教えたことに始まる。その後、小鹿野を本拠に芝居一座が引き継がれ、明治・大正期に秩父の歌舞伎の最盛期を作った。昭和に入り、映画などの流行から一座芝居も大きく変化したが、文化財保護の気運が



高まり昭和48年に小鹿野歌舞伎保存会が結成された。昭和50年には県指定無形文化財、昭和52年に県無形民俗文化財の指定を受けた。

昭和46年より始まった郷土芸能祭を始め、町内の常設舞台や掛け舞台、祭り屋台（山車で年間8回定期上演）。最近では、子供歌舞伎、若手歌舞伎、女歌舞伎に加えて町民参加型の「入門教室」も活躍し、後継者への受け継ぎも盛んで『町じゅうが役者』といわれている。

### 秩父市の紹介

秩父市は、埼玉県北西部にある人口約7万人の市。埼玉県内で最も広い市町村。秩父山地に囲まれ、秩父地方（秩父盆地）の中央に位置する唯一の市である。市域のほとんどが秩父多摩甲斐国立公園や、武甲・西秩父といった埼玉県立の自然公園に指定されている。市の南東にそびえる武甲山では石灰石を産出し、露天掘りが行われている。荒川が市の中央を流れ、市の中心部は東西に区分され、東部



の平坦部分は市街地を形成し、商店街、住宅地などが集中。西部丘陵地帯にある平坦地は、水田など農業用地が多く、南西から北東に流れ河岸段丘を形成する。

気候は、太平洋側内陸性気候に属しおおむね温暖であるが、盆地であるため寒暖の差が大きく、山地では夏季に雷雨が多く発生し降水量も多く、山岳地方では冬季にはかなりの積雪となる。

秩父夜祭は、京都祇園祭、飛騨高山祭と並び、「日本三大曳山祭」のひとつに数えられている。三百有余年の歴史があり、毎年12月2日が宵宮、12月3日が大祭で、その夜にクライマックスをむかえる。国指定重要民俗文化財にしていされているものである。中近・下郷・宮地・上町・中町・本町の6台の屋台・笠鉾が牽引され、3日の大祭は沢山の観光客で秩父は埋め尽くされる。



自然豊かな秩父は、秩父宮ゆかりの地である『霧藻ヶ峰』をはじめ、『芝桜の丘』として有名な羊山公園、日本百名山の雲取山、甲武信ヶ岳、両神山。そして日本三大峠の雁坂峠が有名。平成10年4月に埼玉・山梨県にまたがる雁坂トンネルが開通になり、両県の産業、経済、文化の交流の活性化につながった。



秩父市の花 「シバザクラ」  
秩父市の木 「カエデ」  
秩父市の鳥 「オオルリ」

# 第61回埼玉県各流讚佛歌奉詠大会

◆去る9月10日(木)、埼玉会館大ホールにおいて、第61回埼玉県各流讚佛歌奉詠大会が開催された。参加支部・講は別掲の通り。

・真言宗智山派・密厳流遍照講  
指導師範 詠匠  
(千葉県旭市 妙長寺)

倉嶋 照寿 師  
曲目『平和観音讚仰和讃』

## ◆模範奉詠 (奉詠順)

・吉水講詠唱指導普及委員

内田 広平 師

(島根県松江市 信楽寺)

曲目『涅槃和讃・秋の御詠歌』

・梅花流特派二級師範

西村 宗洋 師

(埼玉県狭山市 慈眼寺)

曲目『孟蘭盆会御和讃・御詠歌』

・豊山流大師講 詠秀

請川 良範 師

(埼玉県皆野町 正観寺)

曲目『大師講第二番御詠歌 無礙』



## ◆賀儀(覧)(順不同)

ありがとうございました。

・千葉県・妙長寺 倉嶋照寿様

・狭山市・慈眼寺 西村宗洋様

・川口市・密蔵院 山口正純様

・北区浮間・観音寺様

・さいたま市・東泉寺様

## ◆運営協力

・上尾市・遍照院様

(机・イスご提供)

## ◆参加講・支部(覧)

(市町・流派) 参加支部・講名

〔詠順・初〕初参加・見〕見学〕

## ◆紅組

埼玉第2教区寺庭婦人会

〔戸田・密厳〕

埼玉第8教区寺庭婦人会

〔熊谷・密厳〕

埼玉第6教区寺庭婦人御詠歌同好会

〔騎西・密厳〕

埼玉第10教区寺庭婦人会

〔寄居・密厳〕

埼玉第12教区御詠歌の会

〔鶴ヶ島・密厳〕

宥勝寺支部

〔本庄・密厳〕

前川観音支部

〔川口・密厳〕

大應寺支部

ろ組  
〔富士見・密厳〕

正詠会  
〔菖蒲・密厳〕

清蔵院支部  
〔越谷・密厳〕

宝積寺支部  
〔越谷・密厳〕

大應寺支部  
い組

〔富士見・密厳〕

迎盛院支部  
〔栗橋・密厳〕

今泉山支部  
〔吉見・密厳〕

光善寺紫陽花会  
〔川島・密厳〕

三光院  
〔朝霞・密厳〕

多福院支部  
〔戸田・密厳〕

大榮寺支部  
〔坂戸・密厳〕

真蔵院支部  
〔宮代・密厳〕

円蔵院支部  
〔さいたま・密厳〕

埼玉第一宗務所梅花流詠歌会

〔行田・梅花〕

西福寺支部  
〔川口・吉水〕

大應寺支部  
は組

〔富士見・密厳〕



埼玉第1教区智山青年会

〔越谷・密厳〕

光明寺支部

〔神川・豊山〕

玄光寺支部

〔加須・密厳〕

寶幢寺支部

〔志木・密厳〕

円乗院支部〔関〕

〔さいたま・密厳〕

上尾遍照院支部

〔上尾・密厳〕

西福寺支部

〔三郷・豊山〕

埼玉第2教区智山青年会

〔富士見・密厳〕

光明院支部〔初〕

〔川口・密厳〕

吉水講埼玉教区本部

〔本庄・吉水〕

法の会

〔川口・吉水〕

円乗院支部〔見〕〔与野〕

〔さいたま・密厳〕

明星院〔見〕

〔桶川・密厳〕

◇白組

埼玉第5教区寺庭婦人会

〔久喜・密厳〕

埼玉第4教区寺庭婦人会

〔越谷・密厳〕

埼玉第1教区寺庭婦人会

〔川口・密厳〕

埼玉第3教区寺庭婦人会

〔さいたま・密厳〕

蓮花院支部

〔大利根・密厳〕

法恩寺支部〔坂戸〕

〔越生・密厳〕

袋の観音寺支部

〔さいたま・密厳〕



一乗院支部

〔熊谷・密厳〕

東光寺支部

〔鴻巣・密厳〕

真宗寺支部

〔熊谷・密厳〕

隨泉寺支部密厳流

〔川口・密厳〕

法恩寺支部〔越生〕

〔越生・密厳〕

高輪寺支部

〔久喜・密厳〕

宝性寺支部

〔さいたま・密厳〕

長田寺梅花講

〔川越・梅花〕

金剛院支部

〔鴻巣・密厳〕

八林山支部

〔熊谷・密厳〕

真觀寺支部〔初〕

〔行田・密厳〕

龍泉寺支部

〔川口・密厳〕

医王寺支部〔日向〕

〔さいたま・密厳〕

医王寺支部〔西堀〕

〔さいたま・密厳〕

相頓寺支部

〔上尾・吉水〕

薬林寺支部

〔川口・密厳〕

守光院講

〔さいたま・梅花〕

大法寺支部

〔坂戸・密厳〕

錫杖寺支部

〔川口・密厳〕

密蔵院支部

〔川口・密厳〕

保寧寺〔見〕

〔騎西・花園〕

圓福寺〔見〕

〔春日部・吉水〕

訃報

謹んでお悔やみ申し上げます。

二十年十月

1日 杉戸町松源寺〔曹洞〕

内田 石峰 師(85歳)

六月

22日 寄居町長昌寺〔天台〕

平泉 良延 師(79歳)

七月

23日 深谷市全久院〔曹洞〕

春日 康明 師(90歳)

八月

12日 熊谷市釈迦寺〔天台〕

森田 幸雄 師(81歳)

25日 本庄市児玉町長福寺

〔浄土〕

吉田 善道 師(78歳)

元評議員

31日 所沢市松林寺〔曹洞〕

森 嶺雄 師(84歳)

元理事

九月

4日 深谷市正法寺〔日蓮〕

宗川 円浄 師(57歳)

ト  
ピ  
ッ  
ク  
ス

埼玉県佛教保育協会

夏季宿泊研修会

7月21日・22日、埼玉県佛教保育協会（会長・丹羽尊照）は、茨城県・大洗にて夏季宿泊研修会を実施。講師に十文字学園女子大学より、造形学の平田智久教授をお招きした。研修の前半は座学。子どもが描く一枚の絵



には、生活体験や家族体験、喜怒哀楽が少しずつ絵の中に表現されている。子どもの視線から絵の見方を教わった。後半は実技研修。新聞紙など身近な物を使ってできる造形遊びを学んだ。翌日は朝早く起きて地曳き網体験。大きなカレイが獲れてびっくり。

埼玉県宗教連盟

平和の祈り

7月21日（火）、埼玉県宗教連盟（中山高嶺理事長）は川越市のカトリック川越教会を会場に『平和の祈り』を開催した。

世界中で起こっているテロや自然破壊、事件事故に心を痛め世を憂いている現状で、宗教に携わる者が宗教・宗派を越えて、一堂に会し、世界の平和の祈りを捧げ、平和の実現を共に願うというものである。今年も、埼玉県佛教会、埼玉県佛教青年会、天理教、新宗連埼玉（松緑神道

大和山、真生会、修養団捧誠会、解脱会）、カトリック教会、埼玉神社庁、埼玉県神道青年会、立正佼成会、日本基督教団より約150名もの参加があった。

事務局日誌

八月

3日 埼玉佛教発送

13日～14日 夏季休暇

24日 奉詠大会打合せ・教化委員会

九月

26日 北部支部長会

県佛大会第1回打合せ

秩父 廣見寺

30日～31日「埼玉連」研修旅行

青森・恐山、松緑神道大和山

十月

2日 会館運営委員会

執行部会

4日 奉詠大会舞台打合せ

8日 基本法第1回幹事会

（熊谷人權センター）

9日 埼玉佛青写仏

10日 第61回埼玉県各流讃佛歌奉詠大会（埼玉会館）  
14日 「埼玉同宗連」役員会  
17日 関東甲信越静地区宗教法人実務研修会（つくば市）

十月

7日 第32回埼玉県佛教徒大会

編集後記

10月8日頃を二十四節気では寒露と呼びます。草花に冷たい露が宿るといふ意味です。秋の長雨が終わり、秋も深まり始め、視覚には、もみじや楓の紅葉が美しく、味覚には秋刀魚、松茸、秋茄子などが食卓を彩ります。そして23日頃は霜降。すっかり秋も深まり、日本列島が燃えるような赤色に染まります。あるがままに移りゆく季節を感じられる歓びに感謝です。

（鯉）